

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
 大学院生研究 2011年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	コミュニティ福祉学研究科	専攻
指導教員	所属・職名		氏名
	コミュニティ福祉学部 教授		森本 佳樹
研究課題名			
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年		氏名
	コミュニティ福祉学研究科 5年		片山 友子
研究期間	2011	年度	
研究経費	100	千円	

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

認知症高齢者ケアに関する研究は、ケア手法から政策まで幅広く行われている。本研究はその中でも、認知症高齢者の在宅生活における個別支援に関する調査研究である。

認知機能の低下に伴って、日常生活に介助を要する状態になった場合、介護保険等によって生活支援や家族介護者の負担軽減が実施されても、性格変容、コミュニケーション能力や判断能力の低下によって、近隣住民や家族との関係が悪化し、それが在宅生活の継続を遮断する要因のひとつとなることがある。

そこで本調査研究では、利用者や利用者を取り巻く社会関係をどのように取り持ちながら在宅生活継続の支援をしているのかについて整理・分析することを目的とし、在宅生活の継続について、家族や近隣住民、商店、通院先の病院等の日常生活における社会関係に着目しヒアリング調査を実施した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[高齢者] [認知症] [在宅生活]

2012年4月10日

成果公表の差し控えに関する調書

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金大学院生研究 2011 年度
研究成果報告書様式2のホームページでの公表に関し、下記の理由により公表
を見合わせることを希望致します。

記

研 究 課 題：「認知症高齢者の在宅生活の継続と社会関係

～ヒアリング調査による事例検討より～」

申 請 者：コミュニティ福祉学研究科後期課程 片山 友子

差し控え理由：本調査研究成果報告書には個別事例を含んでおり、調査先は非常に
人間関係の濃い地域である。学会発表や論文掲載とは異なり、不特
定多数の人が比較的容易にアクセスできるホームページ上での公表
は不適切であると判断した為。

差し控え期間：永 久

以 上